

2018（平成30）年10月16日

東北大学会計大学院

東北大学会計大学院における新たなコースの設置について

東北大学会計大学院では2020（平成32）年4月より、新規のコースを開設いたします。

コース名称と入学定員

ビジネスアカウンティングコース（仮称）、10名（1学年定員）¹

設置時期

2020（平成32）年4月から（2019年5月以降の入試より募集を開始いたします）

本コースの特徴

ビジネスアカウンティングコースは、本会計大学院が開設している「公認会計士コース」と「会計リサーチコース」でカバーされないタイプの人材の養成を目指します。公認会計士コースはコースワーク（講義）を中心とした枠組みとなっており、（選択）必修科目が多いことが特徴です（44単位が修了必要単位数のうち、36単位程度が選択必修科目となります）。また、修了者は公認会計士の短答式試験の一部科目が免除されます²。一方「会計リサーチコース」はリサーチペーパー（修士論文）の作成（合格）が修了要件となる従来型の大学院と類似した枠組みを有しています。

今回開設される「ビジネスアカウンティングコース（仮称）」は、公認会計士資格とは関わりなく、高度な会計および関連する分野（経営、法律）の知識を身につけたい方をターゲットといたします。修了のためには一定の要件を満たしつつ44単位以上を修得することが求められることは変わりませんが、公認会計士コースに比して履修の自由度が高いことが特徴です。さらに、本コースの中核となる科目としてワークショップ科目（複数のテーマを設定）を設定します。ワークショップ科目は教員が設定するテーマについて、学生が参加型する演習（ゼミナール）タイプの授業で、学生は講義系科目を通じて修得した知識を体系化することが期待されます。

求める学生像

日本の上場会社のうち200社近くがIFRS（国際財務報告基準）を適用ないし適用決定しています（時価総額ベースでは30%を超えているともいわれています）。日本の会計基準は細則主義（会計処理の根拠として細かく決定された一定のルールに従うことを重視する考え方）に依拠している一方で、IFRSは原則主義（会計処理の根拠として原理・原則を重視する考え方）に依拠しており、会計・経理の実務の現場では「覚えている」よりも「考える能力」がより重要になると考えられます。そうした状況の下、公認会計士や税理士のような会計専門職のみならず、企業の経理、会計・経理職の方も、高いレベルの会計に関する知識が求められるようになっていきます。そうした中で、本コースでは、関連領域を含めて高度な会計知識の修得を目指す社会人の皆様、日本企業で働くことを希望する留学生、より高度な会計を身につけた上で就職することを希望する学部生を積極的に受け入れていきたいと考えております。

特徴的な履修枠組み

¹ 会計大学院の入学定員（1学年）は公認会計士コース（25名）、会計リサーチコース（5名）とあわせて40名となります。

² ビジネスアカウンティングコースおよび会計リサーチコースでも、所定の単位を修得して修了された場合には公認会計士試験（短答式）の一部科目免除が適用されます。

(1) 週末・夜間講義の充実化

会計大学院では土曜日および夜間（18:00～）の講義科目を増やし、ビジネスアカウンティングコース（および会計リサーチコース）においては、それらを受講するだけで修了要件の大部分をカバーできるようにします（比較的高度な科目を中心に、週末・夜間に開講いたします）。また、会計大学院の講義は一部科目を除き、利便性の高い片平キャンパス（JR 仙台駅から徒歩 15 分）で開講いたします。* 公認会計士コースについては対象となりません

(2) 長期履修制度 or 早期修了

会計大学院では勤務等の事情がある場合には、最長 4 年間まで履修期間を延長することができます（その場合でも授業料は 2 年分となります）。また、ビジネスアカウンティングコース・会計リサーチコースについては、審査を経て 1 年または 1 年半での修了が認められる場合もあります。

(3) ワークショップ科目

ビジネスアカウンティングコースにおける（選択）必修科目となります。各教員が設定したテーマの下、学生参加型となる演習科目となります。例えばある講義では、財務データベースを使って、企業の財務特性や行動を分析して、討論の上、タームペーパーにまとめることが求められます。ワークショップ科目を通じて、学生は分析能力、プレゼンテーション能力を高めることが期待されます。

新たな入試制度

別紙でご案内いたしますが、新コースの設置に合わせて新たな入試制度（自己推薦入試）を導入いたします。

会計大学院の 3 コースのまとめ

平成 32 年度以降、東北大学会計大学院の枠組みは以下のようになります。

コース名称	コースの概要
公認会計士コース (入学定員 25 名)	主に公認会計士を目指されるコースで、公認会計士試験の短答式試験の一部科目免除と直結しています。選択必修科目を中心としたコースワークを中心とするコースとなります。
会計リサーチコース (入学定員 5 名)	社会人のリカレント教育、税理士試験の一部科目免除、博士後期課程進学希望者を視野に入れたコースとなります。リサーチペーパー（修士論文）の作成が必修となります。週末・夜間の受講を中心として修了可能です。一定の要件を満たした場合、長期履修制度または早期修了制度が適用されます。
ビジネスアカウンティングコース (仮称) (入学定員 10 名) New!	高度な会計および周辺領域の知識の獲得を目指すコースです。社会人のリカレント教育、コンサルタントや一般事業会社、官公庁への就職、ワークショップ科目（上記参照）が必修となります。週末・夜間の受講を中心として修了可能です。一定の要件を満たした場合、長期履修制度または早期修了制度が適用されます。

* 各コースとも、会計大学院共通のコアカリキュラムを重視する観点から、倫理科目、ビジネスコミュニケーション科目（英語関連科目）が必修となります。

本文書に関するお問い合わせは、
会計大学院係 (as-jimu@grp.tohoku.ac.jp)
までお願いします。